



APRIL 2018

 **Habitat for Humanity**
Japan

建築活動の合間に、マングローブの苗を抱えるボランティア

14 海の豊かさを
守ろう 

15 陸の豊かさも
守ろう 

自然環境保護とコミュニティ作り

ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン(以下、ハビタット・ジャパン)では、タイ南部に位置するクラビ県バンバガンで、コミュニティ支援を行っています。1,000名ほどが暮らす漁村であるバンバガンの周辺には、マングローブが広がっています。一方、地球温暖化の影響による海面の上昇に比例し、マングローブの数も減少傾向にあります。村民の90%以上が、マングローブに生息する魚を捕って生計を立てているため、このマングローブの保全は村民の経済活動を守るだけでなく、津波などの自然災害から村を守ることにもつながります。植樹される苗は20cm程ですが、3年もすると立派なマングローブに成長します。これまでに日本からのボランティアによって植えられた苗は、1,000本以上にもなりました。

漁師として働く村民の平均月収は、おおよそ8,000バーツ(約27,000円)。村には高校も無く、子供たちは中学校を卒業すると、漁業を手伝うために働き始めるのがこの村の現状です。2017年春から開始したコミュニティ支援では、これまでと同様、家の建築支援に加え、「バティック」と呼ばれる工芸品を染色するお手伝い、そしてマングローブの植林活動に注力しています。

2018年春に派遣した2チームを含め、この1年で9チーム計153名のボランティアの皆さんに、植林活動を含めた包括的なコミュニティ支援活動にご参加いただきました。しかし、持続可能なコミュニティをバンバガンに築くためには、今後も皆さまの継続的なご協力が不可欠です。引き続き、ご支援ご協力をお願いいたします。

住まいから取り組む持続可能な開発目標

国連持続可能な開発サミットにおいて、地球規模で貧困や地球温暖化などの問題に取り組むために掲げられた指針が「**持続可能な開発目標**」です。住まいの問題に取り組むハビタットでは、目標11「住み続けられるまちづくりを」への貢献に努めるだけでなく、企業やパートナー団体と連携し、全目標の達成に向けて取り組んでいます。例えば、自然環境に配慮したコミュニティづくり、トイレや井戸の設置といった衛生環境の整備から健康問題へのアプローチ、自然災害に強い家づくり、子供たちが安心して勉強できる場所の確保など、多岐にわたります。住まいの問題解決は、決して居住空間を整えるだけには留まりません。安心して安全に暮らすことができる家があることこそが、それに付随する問題を解決する糸口になるのです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を實現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナリシップで目標を達成しよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年までに17の持続可能な開発目標を達成しよう

2030年までに取り組むべき、持続可能な社会を実現するための指針

エネルギーと暮らし

今日、私たちの生活にとって不可欠なエネルギー。ハビタットが支援するご家族の多くは、貧困と隣合わせの生活を送っており、貧しければ貧しいほど、家計あたりのエネルギー消費にかかる負担が大きくなります。燃料として利用するものは、都市部では石油や石炭、農村部では薪と異なりますが、いずれも生活のために購入しなければなりません。ハビタットではエネルギーを効率的に利用できる家をデザインするだけでなく、ホームオーナー(受益者)が家計について学ぶ機会を設けることで、より負担の少ない生活を送れるよう後押ししています。

戶外で薪を焚いて料理をするインドの女性。薪代は家計の大きな負担の一つ



持続可能な開発目標について学ぶ機会として、若者に再生可能エネルギーをより身近に感じてもらうと、日本最大級のフロート式水上太陽光発電所「川島太陽と自然のめぐみソーラーパーク」にて、**クリーンエネルギー研修**を行いました。身近な所で、再生可能エネルギーが活用されていることを知った学生の一人は、「改めてクリーンエネルギーを学ぶことで、地球の未来を考えていくきっかけになりました」と語ります。

その後学生たちは、**エネルギーと暮らし**について啓発するため、普段ソーラーパネルの点検で使用するドローンで、太陽の人文字を撮影。チームごとにメッセージを付けて写真をSNSに投稿し、若い彼らの手段で、これからの地球の未来を考えて欲しいと伝えました。



ミッソの子どもたちに歯の磨き方を指導する日本の学生

Habitat Young Leaders Build(HYLB)というユースキャンペーンを通じ、アジア太平洋各国の若者がボランティアや啓発活動に参加しています。若者の人口が最も多い一方で、高齢化した都市が最も多いという矛盾を抱えるアジアにおいて、持続可能なコミュニティを築くには、若者が自ら未来のことを考え、伝えていくことが重要だとハビタットは考えています。またキャンペーンの一環として、未来を担うリーダーの育成のため、リーダーシップアカデミーをフィリピンとネパールで開始。日本でも2019年より、アジアでイニシアチブを発揮する若きリーダー育成を始動してまいります。



千葉県東金市で行われた**エココミュニティ研修**では、人と自然がどのように共存していくべきか、実際に森を歩きながらワークショップを行いました。一度人の手が入った森は、その後も人が管理をしていかなければならないこと。間伐や枝打ちは、森の隅々まで太陽光を行き届かせてより豊かな森にしていくための、大事な森を守る作業であること。こうしたことを学びながら、森の中を進んでいく参加者の中には、大きな森に入るのは初めてだという学生も。未来に向け、森林保護の重要性を各々が考える機会となりました。

SmartEnergy

株式会社スマートエナジーのご支援によりクリーンエネルギー、エココミュニティ研修は実施されました。ありがとうございました。

住環境改善と住まいの確保

日本の国内の住まいの問題として、「路上生活者」「空き家」「ゴミ屋敷」といったことがニュース等で取り上げられています。ハビタットが都内で取り組む居住支援プロジェクトホームワークス(PHW)では、住まいの問題の一つ、ゴミ屋敷といわれる住環境下で暮らす方を対象に、清掃支援を行っています。では、ゴミ屋敷の何が「問題」とされているのでしょうか。多くの場合、近隣の迷惑になるという一面が取り沙汰されていますが、その環境に住んでいるご本人の目線に立ってこの状況を見ると、また違った「問題」が見えてきます。

【今ある住まいを守るために】

PHWを通じて出会った、都内某所の賃貸アパートで一人暮らしをしているXさん。過去に路上生活経験があり、認知症を患っています。たくさんの物を集めてしまい、室内は寝る場所も無い状態でした。しかし、物が詰まったゴミ袋が積み上がった部屋の真ん中で、Xさんは微笑んでいたのです。Xさんの家は賃貸契約のアパートのため、物が溢れた衛生的とは言えない状態で住み続けようとすると、賃貸契約が更新されなくなるというリスクが生じます。そうなれば、住む場所を失い、再び路上生活に戻ってしまうかもしれないのです。Xさん宅は、住環境を改善する必要性に迫られていました。後日、5名のボランティアが搬出した廃棄物の量は、わずか半日で500kgにもなりました。長らく物に埋もれて見えなかった床が見えるようになり、Xさんは布団を敷いて就寝できるようになりました。住環境の改善は、今ある住まいを守ることでもあるのです。

プロジェクトホームワークス活動報告

プロジェクトホームワークス(PHW)は、2017年4月から清掃・修繕支援を開始し、住まいの問題解決に取り組んでいます。

【清掃・修繕支援活動】

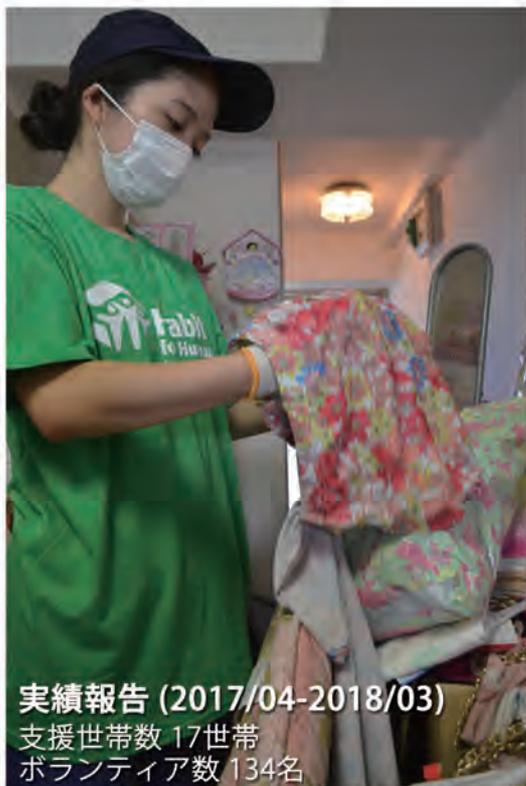
2018年3月までに、延べ130名を超えるボランティアの皆さんにご協力いただき、高齢や障がい、経済的な理由でお困りのホームオーナーさんを支援することができました。

清掃支援は、家の清掃作業により住環境を改善する活動です。作業を通じたボランティアとの交流は、住環境改善の一步を踏み出す後押しになるだけでなく、ボランティアもまたニーズを直接把握することで必要な支援が何かを知り、行動に移すことができます。修繕支援は、出窓の転落防止柵や急階段用手すりの取り付け、防音材の設置や、天井板の張り替えなど、より安全に安心して生活できるよう住環境を改善する活動です。

個人宅のみならず、複数の生活困窮者シェルターでも支援を実施することで、シェルターそのものの社会的意義も啓発しています。

【住まいの問題と今後の取り組み】

ハビタットでは、清掃・修繕支援後も再訪・見守りを行うことで、適切な住環境下で生活し続けられるように支援しています。また、高齢や障がい、性別や国籍を理由に、入居を拒否されやすい方への物件探しの支援も、本格的に展開してまいります。



実績報告 (2017/04-2018/03)

支援世帯数 17世帯
ボランティア数 134名

プロジェクトホームワークスを
ご支援くださっている企業の皆様
ありがとうございます

J.P.Morgan

Bloomberg

HILTI

Johnson & Johnson
FAMILY OF COMPANIES IN JAPAN

国内の住まいの問題に取り組むプロジェクトホームワークスが動き始め、この春で1年が経ちます。振り返ると、ホームオーナーさん、支援者やボランティアの皆さんとの多くの出会いがありました。社会人や学生など、年齢も職業も違う方々と一緒に時間を過ごしながら思うことは、それぞれがホームオーナーさんに真摯に向き合い、自ら進んで考え行動に移し、ニーズに応えようとしてくださっているということです。時には、「なぜこの活動が必要なのか、上手に伝えられているだろうか」と心配になることもありますが、いつも杞憂に終わります。ボランティアの皆さんの豊かな感性と実行力に私自身も多くのことを学び、この活動を応援してくださっているのだという、勇気をいただきました。2年目の本年は、さらに活動の現場も内容も拡大してまいります。今後も皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

スタッフ便り

プロジェクトホームワークス担当 栗田陽子



清掃活動するボランティア

新理事長就任のご挨拶

理事長

セシリア・メリン



ハビタット・ジャパンの新理事長として、皆様にご挨拶申し上げます。ハビタットの理念である「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現に向け、ご協力くださる支援者、パートナーそしてボランティアの皆様にご心より御礼申し上げます。この度、ハビタット・ジャパンの理事長として、支援を必要とする国々や人々のために活動できることを光栄に思います。

私が初めてハビタットの活動に参加したのは2009年で、当時はボランティアとしてタイの貧しい農村を訪れました。出会ったご家族は3世代12人で1つの小さな部屋に住んでおり、トイレも台所も無く、料理は外で薪を焚いて作られていました。私は現地で目の当たりにした貧困の現状に驚く一方、私たちを温かく迎え入れようとする真心に感激いたしました。日を追うごとに家が形作られ、次第に誰もが笑顔に。家が完成したときには、その場の誰もが感動で涙しました。ご家族に贈ったもの以上に、多くを与えていただいたと感じました。こうしたハビタットの活動に感銘を受け、その後もベトナム、中国、カンボジア、フィジー、インドネシア、スリランカでボランティアとして参加しました。ハビタット・ジャパンは現在アジア太平洋地域において最多のボランティア派遣数を誇り、2017年は建築活動に1,200人以上のボランティアを送ることができました。また昨年より開始のプロジェクトホームワークスを通じて、表立って見えない国内の貧困やニーズに対応すべく、高齢の方や障がいをお持ちでお困りの方の住環境改善に取り組んでいます。私は15年間東京に暮らしておりますが、ハビタット・ジャパンが身近な問題に取り組んでいることを嬉しく思います。

私の故郷であるスウェーデンには「分け合えば喜びは二倍に、悲しみは半分」ということわざがあります。喜びの時も悲しみの時も、支援者、パートナーそしてボランティアの皆様と手を取り合って、より明るい未来を築くため、そして持続可能なコミュニティを作るため、なお一層邁進してまいります。きちんとした家こそ、人々の生きる希望になると信じて。

ご支援、ご協力をお願いいたします

ハビタットの活動は、個人や団体、企業の皆様から寄せられる、温かいご支援で成り立っています。お一人おひとりのご支援が、健全な住まいを必要とするご家族の未来を築きます。今後もハビタットの活動に皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。ご寄付は郵便局、もしくはホームページよりお手続きいただけます。

【郵便振替受付】

郵便振替口座：00100-2-278431

口座名義：(特活) HFHジャパン

【クレジットカードでの受付】

ハビタット・ジャパン

検索



毎月最新の活動情報をメールマガジンにて配信しています。ぜひハビタット・ジャパンホームページよりご登録ください。

